

18
17
16
15
14
13
12
11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1

B

M

貝
生
先

增
補
和
字
解

ホ 2
730

0
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18

JAPAN

Tejima

貝原益軒著迹

改正
增補

和字解

撰陽書坊松檜堂藏版

門加2
號730
卷



和字解叙

用國字之法先輩既有其書但
 未知其真偽或雖傳其真恐古
 昔草昧之議論未精詳乎且或
 數百年之間傳寫之誤失其真
 亦未可知何其義理之不明也
 是以其說徃徃模糊不通雜沓
 不專讀者惑矣竊謂天下之事



增補和字解

不出乎理外論事者苟不以理斷之則將何以爲據乎哉右和字解一卷採舊說之可用者且考於日本紀萬葉集和名抄古今和歌集等之古書訂之以和音五十字間加臆說以斷其理只恐僭率之至不免妄謬之罪博雅之君子改正之惟幸

元祿己卯花朝日

貝原篤信書



曾補...

和字解

貝原篤信著

假字遺の法一にハわいゝ忍れ五字乃
 同音れ字と和音五十字の相通よりて
 各よろしくたふ小用と二にハ五音中内
 六忍の輕重よりて用ゆる字かゝれと
 三にハ同合のかあとりまことなる小用は是と
 かなづくひの三要とに凡よりづのり理あ
 るはるりね一理と考へばしてみざるに

かな事ハ必しやゆりあり又理なく一
 法を定むるハむがる也古人のかあづくひの
 法式減さるゝ免とるハ裁ふま理ある
 かな事一後せれ人其の理又通さるゝて
 かあとさるゝめ初ゆるハ事と一ハ小兒の繼
 とゆるぐと一習ひとさると一ハ中を
 おれををさるゝに又庸醫の古方れ意を
 ちるゝとみとるゝ小業を用ひる人哉

和字のなまがぶとく古人の方意をよく
 志すべしけうれなうおべしかなはくひも
 又志すり和字を用ゆるまよりりふ海を
 かあの内やほりなるはべし今かあつひの
 大法五字は類をあげしこせりうと志し
 和字解用合のよりち一卷とく和字を用
 ゆる理をよとと茶葉の人鄙陋の
 習ひありて僭忘の罷れられがしと

いへども童蒙のきりあはるる後見
 志すてよく志れる人乃改作をたのむ

凡假字遺を定むる法あいうねをの和者
 五十字の相通を本とし是を出し
 かあつひの理を中みあはる

和字解用合

縦相通

あいうゑを
かきくけこ
さしすせう
たちつてと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やわゆえよ

横相通

らりるれろ
わいうゑを
あかさたなはまやらわ
いきしちにひみかりい
うくすつぬふむゆるう
いけせてねへめいれえ
をころこのほもよろこ

五類

わいうゑに
又字の類なり

○わは乃は中と下とにけむわも同

○い口のい大概よいたし用ゆ

中のお大概はよまたし用ひお小通ハぬ

亦又用ゆ

○奥乃ひい文字よりよはきよ用ゆ

○う口のう

後れふ中と下とにきむうと音同

○へ口のへよとれ中と下とふ用ゆれハ忍と音同

○お奥のにおよみの中と下とに用進むをほの
字と音同

凡かぶつひのものちハ大やけ

又類ふるは中奥ハいろはの

後の次中なりとのくまふふ

えふべ

音補和字彙

〇い以是と^{くら}のいと^{くら}みい乃字ハその音^{こゑ}程して
 弱^{よわ}きふ^{りら}ゆよみれがーらあ急の下^{しほ}よこれ中^{ちゆう}
 下^{した}めく^{めく}きの字よか^かう^うみ字^じ凡^{たゞ}いの字を^を用^{もち}むるよ
 け之^{この}振^びる^る刻^{とき}のがーらと^とい^いみ^みハい急^{いそ}家^かいと^と岩^{いわ}
 いらか^あ覺^あいたる^る至^{いた}いのち^ち命^{いのち}いのる^る祈^{いのち}いと^とふ^ふ祝^{いのち}いかつち
 雷^{かみなり}うや^{うや}の^のき^きく^くひ^ひぬ^ぬる^る〇音^{こゑ}の下^{した}と^とハ^ハて^てい^いる^る帝^{みかど}
 けい^{けい}こ^こ替^かさい^{さい}いと^とい^い拜^かかい^{かい}雨^{あめ}けい^{けい}慶^{えい}急^{いそ}い^い永^{なが}ら^らい^い来^きたい^{たい}
 大^{おほ}す^すい^い水^{みづ}く^くり^りん^んたい^{たい}緩^{ゆる}け^け顔^{かほ}なり^{なり}〇刻^{とき}の中^{なか}と^と下^{した}と^とお^おて

きよよの^のよ^よみ^み字^じと^とハ^ハつ^ついで^{いで}は^はり^りて^ては^はり^りいた^{いた}ち^ち朔^{しやく}日^{にち}は^はり^りい^いち^ち
 築^{つく}地^ぢつ^つき^き比^ひこ^こま^まい^いの^のま^まや^や后^ご宮^{みや}た^たは^はい^い大^{おほ}き^きか^かい^いま^まる^る植^{うゑ}間^ま見^み
 す^すい^いが^がら^ら透^{すゐ}垣^{かき}たい^{たい}ま^まつ^つ松^{まつ}明^{めい}う^うは^はく^くく^くい^い養^{やう}う^うく^くま^また^たの^のい^い
 樂^{たの}の^のま^まか^かた^たう^うい^い悲^{かな}き^きう^うれ^れい^い嬉^{うれ}き^きお^おい^いて^てお^おき^きて^てな^ない^いて^て
 鳴^な泣^なた^たま^まきて^{きて}よ^よい^いか^かま^ま互^{たが}哉^がか^かい^いて^て書^かきて^{きて}は^はり^りい^いて^て繼^{ついで}て^て是^{これ}も^も皆^{みな}ま^ま
 の^の字^じみ^みあ^あい^いの^の字^じ城^{じやう}ま^まなり^{なり}と^とた^たふ^ふか^かう^うあ^あハ^ハ
 ち^ち一^{いつ}ぬ^ぬる^る弱^{よわ}字^じぬ^ぬる^るい^いと^とき^きと^とハ^ハ振^ふ乃^の
 通^と者^げい^いき^きし^しち^ちに^にと^とあ^あみ^みく^く六^む日^{にち}ハ^ハむ^むい^いか^かと^とか^かく^くハ

曾補和歌集

〇

ひの引音ひきぎんなりむかといふ處を引音あり
むいかといふむゆかといふは

○ろ呂 ろろーて 論て

○は波 是と口のはといふくちめことと云時 子とき

申あしも下めくもはの字減きあし一えはハ
同字どうじなりこの字われ字減きべくはえ乃音
の字とことよむこととれ字減きべくたといハ

○たんむ 緩 又 横 福 たハふれ 戲 川 又 代

いけとや 傷 かこりく 傍 ねりり 終いハ名あハれ哀あハる

合 あハ淡 きハむる 極 庭 究 みぎハ汗くハん 丸 やまのそハ

山峽 赤ハ纏 さりり障くハん 觀音 ぐんぎよ 還御 ぐんお

官位 にぎハひ 賑 家業 くハん 懷妊 くハいら 回廊

くハ過 くハいき 快氣 ぐハいん 外聞 くハき 是 せる 是 是ハ皆

中下 ひら とも皆ハの字也 ○ 又はの音の字とことよむハ

びハ 琵琶 又 枇杷 よハ夜半 常盤 かにハ 難波 此類ハ

きもハみと 唱 れども元よりハの音ハ字ナまは

ハの字々べー又割くわ少すくしよむ字少すくををハ音羽
 阿あハ音羽おんうなどにはもくハと唱となまじもその字解
 との字々つ履りくは○一説せつ小音こおんれ中ちゆう小せうあるよとい
 の字と不書ふしょ或あるひハくといらう回廊かいりやうくといき快気かいきなどハ
 とれ字々つ履りくべーといハアああやまらなる右人みぎのひとのかける
 かまをかんぐ又能よく志しまは人ひとよきハハ祿ろくてそのたー
 かるるを能よくハ

○に仁 ○ほ保 是これをハのほといハ大おほの字御ご乃の字

多おほの字付つらるおりの音おんの下したれかあよこの中下ちゆうかに去
 かあ一字いちれ音おん割くわよあハハ字じ是これふを之これ極ごくあり
 ○大おほの字々つ履りく字多おほ乃の字付つらるねときかあとい
 おほそく大空おほそく おほー多おほおほち太父おほちおほやけ公おほやけおほち
 大路おほちおほきまらち正親町おほきまらち おほとき御酒おほとき おほんわくと御意おほんわくと
 おほんたれ御鳥おほんたれ おほんへ御費おほんへ おほむこおほむこ 和名抄おほむこ おほか上おほか 上おほか
 此類これたりの音おんのかあよハ皆みなはの字々つべーハは母はか
 同ト ○割くわの中下ちゆうか小せう字じかあといハハ巖いわかほ顔かほ

志ほ^塩さほ^竿おほ^又掩いか^里庵^うる^ちお^小か^ひ香
 お^郡か^ほる^薰み^さが^操ぞ^こほ^熟わ^さか^ほ朝^顔
 ゆ^ふぐ^不夕^顔と^ほふ^融わ^の木^厚朴^和名^抄う^つほ^靱そ^のり^調
 お^とく^か入^にか^のう^と鳩^海ほ[、]頬^じほ^潮こ^ろか^ひ比
 お^づづ^三酸^漿和^名お^ほせ^仰か^里ほ^のい^か借^廬る^ろほ^方微^降
 け^類皆^口の^ほ乃^字り^るべ^ーい^げま^もを^とつ^ふ
 たり^たほ^とさ^お小^男ゆ^の一^説お^音と^とぬ^る字
 お^ほの^字を^とと^いへ^とと^とま^こふ^かぎ^るこ^おろ^とと

こ^とさ^ほ操^こち^り氷^とほ^る通^あど^の類^いた^ぬる^音お
 あ^らざ^れと^もほ^の字^を用^也其^のか^り中^と下^とよ
 半^かふ^おほ^れ字^を用^ゆ事^も何^と通^の字^と
 を^ると^とと^と人^あま^まと^とと^とほ^ると^とと^となる^費之^款に
 あ^らざ^れを^い思^ふな^らず^やハ^とよ^める^おを^使
 と^すべ^ー一^字の^音割^ふあ^る字^とハ^をつ^か
 初^穂さ^ほ川^佐保^川い^かほ^伊賀^保さ^ほか^瑞穂^まの^か
 ね^ろろ^松帆^浦さ^ほひ^め佐^保姫^にか^のう^と仁^保海^こか

乃松三保松原ろくろくか御修法此類にふいをとり
 ども皆口のほれ字類にあり○或ある執勢しやくせうの字は
 ほいと才といふはひびく事なりきん氣生きせいの意いなり
 木の字をまべ—そで志しが袖濡花はなの志しなり
 枝折えだをりかくかるるつつあり

○へ邊へを口乃へとりふよその中ふ利りあるか
 三極さんごくありとひふふかよりふ字はへへの字書しよなり—
 とひふへは縦たての相通きうつうなり○おもひ思しさかへあ棠たう堪かん

たまふ給たまふいへもな離なうへい仇あひ極きままへ
た新あらたさうめし侍しとあい唱なうまへい准しんはい傳でんそし調てううれ愁しゆかそ
教教きやうそう捕とたくへい類るいたくひい貯ちよ是こ等とう皆みなへい文字もんじをまべ—
 ふの字ふ小せうぬいふななり○又ゆふかふかへい文字もんじを
 産うつらむとえい文字もんじをまべ—
お不ふえい覚さくや内うちゆえよ縦たてめ相通きうつうなり○又そのゆる
 そゆるかぞゆるなどい虫むしいひぎとぬりそのつるかぞる
 とまべ—○色いろれれ字じを月つきゆるり刻きといひいか—古

増補新字

二

かへ片枝まへ前よりへ後などの類い色の字れ意なる
 旅へへの字れ出べー○中り小用由致かあとハたへ
 妙かへ歸かへかへで楓えへのえへりをへあへてをへあへて
 をへあへしをへあへし女郎女郎花花ふまあへてふまあへてななりてゆへる
 うちへへをへあへて織織花のゆみまへ夕夕栄栄あへる
 まへをへあへ押押ひとへ重重くハへかへをへあへてあへて教教あまむへ
 駒迎駒迎是等是等ふふのよハぬ字あを中みハへの字まぜ
 此類横の相通相通かりりて知知はる

○と登冬至と東寺と燈心

○ち知 たびち旅路 あハぢ淡路 のぢ野路 んぢ耻
 やまぢ山路 ちやう長うぢ宇治 くえぢ巻軸 ぢ釀
 重重げんぢやく還着 ちぢ後 ち治ち治 ちぢ筋 げち下知
 かいぢん凱陣 ふぢ関の川藤川 ちと快筆具 ち快ち本包
 縮 ちん洗 ぢやうぎ定規 ちやうくん貞観 ちきつつ
 直綴 ぢびやう持病 ぢよとく除目 ろぢ路地 ぢやう
 治定 ぢつきん眠辺

○り 利 聖體止 領状

○ぬ 怒 ○る 留 ○を 遠 是を申乃をとり

上にあつてよきよきかろたふ小の字をよ
よむかふ是かろきれ又刻の中下右に申
のをれ字判由べ一皆くらむより出ふかろたふ
なり上よあつてよきよきかろたふ小の字とい咽より
出さふかろきよきかろたふ字なり○をく置をそ一遅
をり咽をそへし女帝花をれづる自をのく一各

をこなりを行をくは後をよそ凡をを押をを折

をく終をろく愚をなり一同は類なり○音ハ

億音の類皆形辨あつて寝き音なり○又應

翁かゝの咽より出るたふハたふと虫一

をれ字すべうは又上よみくねきつ字ふれ乃

字成りけとも上ふつた字あまづかろくは

也ふをの字よあつてたふこよハたくのれ

なつともあつてことほげむ申のをれ字虫

魚ーおろー山やまをろー同ーけ類おほかるべー^一
 ○てはをのをはひとせとらほをあらうとひとを
 うらみ物ものとぶぶかすかすとありまひけ類てはをの
 とれ字をはくはよ皆申のをれ字と用也かるた
 ゆゑあり○又かをなごめをの字あべー片保波
 と争ハ非いかり片男波片小波なごハ非いなり
 万葉集まんやうしゅう五卷ごまき小浮かぶ平とふ各養とありとハやとあ
 字なりとまをわうこのをの字ふ同じかて城

夫みとハ志がもちてひるがくぬうるあこの
 意れ里○小乃字城をとよむかふとハ小野の
 小倉とぐら小原とがら小栗とがら小塩とがら小嶋とがら小田とがら小森とがら小車とがら
 小柳とがら小忌衣とがら小船とがら伯父とがら伯母とがら右の類皆申
 れをの字用也べー○よこの申下とハあをせし音
 とをうー遠かをー直たをやう緩とせし功とあを
 直ひをびー蜂蟻うを魚 此類皆申のをれ字れ
 ほの字よりかるくよハさふ用也べーくちのほも

曾南

よみの中下に虫事らと申の中のをよその中下ふ
 かくとまぢたきやととらふひもべー○芭蕉だせや
 唄こやうせきの和名抄せきふをせをむとよませり古今集こきんしゅう抄
 此名なの音ねふ心こころをせ我われむとつらりよとよむ入るあふ
 けさくえま因よきまう結むすまふそ目ひハ魚ういぬるあう後あとをせ我われむ
 人ひとふまけくとよみ入らり蕉せとの字じいせうのこゑ
 なるをせ我われとよほせし事こと後あとをせいとよまはし
 蘭らん城じやうらにと訓よまし文ぶんをあことよまはし紫むらさ苑えんを

志しをにと和わ洲しゅうせしぬり岡おかとねがしとかけれ
 ころもあまこ通つう利りあまきとれる古人こじんの書かきをん合あはて
 志しはへしととぐくいひるし○あとのをを 琴こと緒お
 志しとくのはし緒つと絶た橋はし 志しののををまねたた 賤せん麻ま手て巻まき ちの
 をとくまきりーのおとらふハ年としふ対たいして家け尾びと
 うきり尾おしハねがり拍あひの緒いとハいほ連れんもをの字あじし
 ○をちこち遠とほ近ぢか をちこち鳴な百ひゃく千せん遍へん鳴めい 足あしはをくらん
 ○わ和わ 是こゝ城じやう後ごのこつら青あお刺しともふよまあむ

曾南の字解

〇十五

一字れよみこゑよ用あべー○音割こゑとよふよこゑと
 とハ音ハこゑわ王黄横狂あどの類なり割ハこゑと分
 海童こゑと我と吾と徳わこゑる渡こゑたまこゑよ分
 此類なり○一字の割こゑハわこゑ輪こゑなり
 回ハこゑ葉こゑに浦こゑ回こゑとこゑり三輪こゑりこゑ三掃こゑ汲こゑ
 掃こゑ掃こゑ松こゑ園こゑ塙こゑ片輪こゑ雪こゑ鞆こゑ織掃こゑ是等こゑ何こゑき
 もこの字○又あこゑらこゑり断こゑねこゑとこゑハこゑく思こゑ誤こゑ夫こゑとこゑここゑ語こゑ
 志こゑわこゑざこゑ仕こゑ業こゑさこゑとこゑらこゑびこゑ早こゑ蔽こゑひこゑとこゑずこゑ弱こゑうこゑとこゑみこゑとこゑびこゑ根こゑ後こゑ

とわこゑるこゑとわこゑるこゑていこゑとこゑ帝こゑ王こゑ志こゑんこゑわこゑ親こゑ王こゑだこゑい
 是等の音割乃類いげれも二字をわハ
 せこゑるこゑ洲こゑもこゑもこゑ本こゑ上こゑみこゑらこゑぬこゑとの字こゑなるこゑとこゑ下こゑよ
 んこゑとこゑもこゑわこゑの字こゑをこゑずこゑぬこゑ此こゑ外こゑ申こゑとこゑ下こゑとこゑはこゑとの
 字こゑ虫こゑへこゑくこゑはこゑ○或こゑ類こゑ小こゑことこゑわこゑざこゑ事こゑ業こゑとこゑ本こゑ附こゑハ
 夫こゑとこゑとこゑさこゑあこゑくこゑ類こゑの字こゑれこゑ附こゑハこゑことこゑとこゑとこゑさこゑあこゑりこゑつこゑと
 いこゑへこゑまこゑとこゑ古こゑ今こゑ序こゑよこゑ夫こゑとこゑわこゑざこゑ志こゑきこゑたこゑあこゑりこゑれこゑん
 とこゑとこゑとこゑ用こゑひこゑてこゑことこゑとこゑわこゑざこゑ枝こゑよこゑとこゑとこゑとこゑ

増補 雑字考

廿五

○か加 かう梅子 かう香齋 かう上野 かう

ほみ 香包 かう講師 かう高力士 かう鴻

かう麴 好事 かう幸甚 かう高聲 かうこ

高中子 かう庚申 かう香水

○よ余 ○た多 たる唐人 たる道 たる湯治

たる豆腐 たる番椒

○れ礼 ま霊場 い療治 ち聊尔 や聊尔

○ろ曹 ○つ通 ぼ厨子 ぼ圖書 ぼぼ ぼぼ

頭巾 ぼ頭陀 あぼ ぼぼ ぼぼ

○ね念 ○な奈 なる納受

○ら良 ら郎徒 ら老中

○む舞 む乃 字か 事む 馬む

ま埋木 木つ びい のか あり む梅 万葉 小う めと とを かり 和名 粉

直万 葉小 ろへ もも ち 武む 年む 舞む 人む みあ 通つ 利う をむ 武む の字

かりんハ 先ひ の字 を略 せり ○又君 きん上 の人 で飲

よみ てよ 文は 是の 音を 概して 文と 音と 此の 類を める 事は

皆之類むよ用ゆるなりことむと通ずる

○う 岸 是と口のうと云訓ふらむ字何とを云く

ふきの字とく此字とに通ずるよみよは此字城

用由べーうとくとハ通音きとくとも通ず

ねりくま ち 長 娘 細 辛 若

たうき 言 養 厭 能 保 け類皆

うれ字せべーふの字半登るべ又むふかよふかな

小とこの字を判ゆ○んん椀飯冠梅類

かんぐく考 かんづけ上野 此類むふかよふかよふ乃字

まべーうとむと通ずる也○みふみふ字ふも

ちるのらと 上野 守殿 神南 此類

ふとられ字半登ーことむと通音也又旅人

藏人 藤人 などいれ字を半するにびんごん

こまんごとまべた城 音ふらりてうと唱ふる

たびうとくらうごこまうごとうれ字をさうけ

八日ちやうかとまやうれ川音いうなり十日ハと城

なうさうろふあうに十の字をと續なり又妹
の訓いさうと云いろとふべきをとりともと
通じくいれとふもの字は引音はうの字な
れあいきうそまいろとハサく〇一親いとハ
女なりをとハサくまりいふんハ女中なり此説
あうばいをとまべーこさちを小路と
まろりこちとハハひ屋うにあふこ乃字小
引音をつきくこさちとハハうの字成まべー

まろりすをのふとまべううと音ふあひ小平
上^一去のニ聲母の引音ハ皆うの字をとま屋ー
東江^{とうかう}尤上^{ゆうじやう}久^くれ類なりふれ字まべううに^{かうせう}入聲
の引音ハふれ字なるべー後^{のち}小記^{せうき}〇世^せ俗^{ぞく}小^{せう}風^{ふう}の
字は訓ありとま^く説^{せつ}をひがうの^り解^げと^かや^れる
ハおよりけりーくまひまきまきるあやまるとけり
ふの字下^{した}又^{また}虫^{むし}く^くハうとよむ事と上^{かみ}ふ^ふま^まく
うとよむべきとま^まと^とま^まれー和^わ名^な抄^{せう}ふ^ふも^もう^うや

とよませり○あふこととまあふこととあへりうに
 りよこととあいうことありあいうみとあ水うこの
 りなり遠のちもまをたうこととあへりまをぬと
 こまのあいうみぬうむしまをぬ小漢名乃あ
 うことあに近代は塩うこととたれに遠のちとあ小
 ちをたあいうこととあゆり近のち都小近きあは
 うみあに是ふ對せりつあれうへりたなりあは
 のりへりあやとをつあをうこととあへりまをぬへり

音ふよりてまをたうこととあ

○か井 是を中乃かとりし中れかをさるか
 字は音一あへりまをた音ふ初也いの子より
 初と一字のうみふあふはうと音の上一字の
 音れよみの下あへりまをたふのあはぬ字凡は格
 ある○一字の刻ああは字とあ井居猪亥
 蒲堰膽 此類をかふよきふは皆かの字用へり
 又とれぬ宿直 まとぬ圓居 ふすか卧猪 あまか飛鳥井

くはのか熊膽 け類皆かの字すべし是皆一字乃
 洲こまなるゆいあり○音の上といかむかう猶有かう右かく育かく都
 院かん下かん尹かん負かん韻かん音かん等の類なり皆中のか乃字
 とすべし○一説しぬる音ふかの字とす 院かん隠かん
 祝かんなごの類ありといへばとさきとそれふかきと
 音の上かんは皆かの字と書る○一字乃音とハ
 園かん位かん委かん威かん意かんの類かんハ皆中かんれかの字とすべし
 ○よみの中かんもたふかといぬ字といきとふよかよ

いぬとつみくくわ位かんくれかかん紅かんのわかかんもとかんか基かんにかんか
 満かんくかん新かん枕かんつかんかかん小かん終かん おかんとかんくかんかかん
兄サリウかといハカエカハハカエカリカとを
 冠す一子の訓なるハカハの字を用也
 そりかんかかん鳥かん居かん ながかんりかんくかんかかん整かん やかんふかんぐかんかかん 胡かん篠かん 酒かんとかん志かんかかん 強
 こかんかかんとかんるかんたかんりかん木かん居かんるかん鷹かん きかんかかんるかんくかんびかんとかん 木かん居かん鷹かん ねかんきかんかかんて
起居 こかんかかんアかんかかん 氷かん居かん こそかんかかんけかんくかんきかん 木かん居かんつかん鳴かん そかんこかんかかん底かん意かん
 かかんでかんれかん里かん 井かん出かん里かん かげかんくかん 井かん筒かん おかんほかんかかん川かん 大かん井かん川かん くかんもかんわかん 雲かん井かん
 やかんまかんのかんかかん 山かん乃かん井かん 志かんかかん志かんむかん 推かん柴かん ひかんこかんかかん 額かんいかんかかんひかん 言かん甲かん斐かん かかんかかんのかん
猪名野 たかんまかんくかんかかん 魂かんよかんかかん 宵かんけかんたかんあかんらかんハ
うひともまへ

音韻

廿七

○の農 ○おた 是をたくれおとらふ二字の刻咽
 より出いづふおりましたよこ急の上れ字ごとくに大の字と
 御の字付する字是おとまかあるなり○一字の訓
 とハ男ね 雄た 尾ね 湫た 峡た 面た 此類たくのおなり是
 等の字上よみとてと下ふもくもたのますべし
 おりき重 たりお高 雄た まつのお松 尾た かいお勝 尾た そのお
 箕面み 志し げの たた 賤男た みみ げの おお 水水 尾尾 たた たると 尾張た かとれ
 類下ふもくもおの字とへし○咽のどより出いづた

おりましたよこ急の字とらよみのかいらふもあ急の
 かいらふを咽よりおとまき音こゑなり何いきもたくれ
 おの字とへし おほやけ公 たほし多 おほけりく
 無及 柳あ 生る おほみ狼 おうふ女 おふ負 たほせ价 お
 ぼく思 敷敷 たほよ掩 おほき正 親町 おうこ 擁護
 おう翁 此類このるい 咽のどより出たれりたかふハたれくのお
 の字とへし○大の字御れ字付する文字ハ
 おほおわり大 たほよ凡 おほき大 君大 おほ大 内大

諸神代卷

〇七

神祇宗一録

卷

おまへ御前 ねほぢ祖父 おほろ大形 ねと大臣 おほ御坐

ねほぬ大森 おほん御神 ねほわ川大井川 おほよか

汪洋 おほん御費 け類ハ皆ねくのおれ字虫る

是又咽のどより出るねりたし名れP右中なうのそれくれ

お用ひやうかく乃ごとくこのやう 此外上よあれかあよハ

中のをねくのね通つう用してをさるうかきさかあらに

かちるべうと武先達むらえんのいへれううづ傳つたへね家

ほしにさもあねあつべきとぬりねねふ先妻せんさいの人ひと

中なかれをねくのおまうちれく用ゆる申かきりさ

そのりそのりわさき ちりぬらうあうじまきうりて後人ごじんのほよひ

とかな大やう右ふいね理りををのさきとさき

登のぼり理りなだふ志わく定さだむはひひりことあるべ

○凡とよねくのね乃字下よハ歩べう守中しゅちゆうあをかくに

てにはよよねね用もちもべうとさきとさき一ひと字のよみ

中あも下よをねくのねれ字を書るかしその

とさきとさき上よ記しるし

諸輔の書

卷

○く久 ○や夜 ○ま満 ○け計

○ふ 婦 是をたぐのふとのふ割よむ字の改

をひくよへの字とひれ字ふ通ふふハふの字改す

べーはひふへほふ通ふふなり お思 思 順

強同 答 給 並 教 負 なるおふ

名小おふなり 此類あり又きのふとのふとひのふと略

せりくふとのけされ目とのふを略せるとひふ通され

おふふの字を虫ぬり ○入聲れ字の川音乃下よ

ふの字きべー 法入葉蝶急押合答問左の類

なりりうれ字虫べうらひ ○或親小おの名れ川音の

字ハふを用ゆるとらふハれなり 拍子の拍の字入

聲陌の韻なりひやうーとキへーへうーと虫

るうくす又あふむ 鸚鵡 ハあうむなまとも割よハ

らきくあふむと虫芭蕉をとせ城と半同例也

○生の字うとむとハふの字虫べー おふとのふ略

強なり あさぢふ 淺茅生 にふ丹生 よもぎふ 蓬生 よも

諸補

一

のうら 麻生浦 かまふ 蒲生 けりけり けりかハチ 河内はうのくハチ

たハふき たハむきハハ かハれ 和名抄 ひ 侍士 ぬ 合致本

葵和名如此あまハ あ 扇古今集和名あまハ ぬ 合致本

り 標棟和名 ぬ 眠はら ぬ 語訪吊 かけ 蟬

あ 仰あ ぬ 睚こび り 障泥 た 倒た

あ 扇あ ひ 日向 た たれ ○ 通 通

遠 龍 用 飄 葉 重 忍

召 け ○ ハ

○こ 故 こ

○は 是 と 中 の え と り 一 字 の 訓 音 け が ら や

の ゆ え よ の 字 ふ か よ う か 中 の え の 字 を ず 右 の

三 の ぬ だ り ○ 一 字 の 訓 え 江 枝 兄 柄 飼 得 え

此 類 ろ り 又 ひ え の 山 比叡山 き の え 甲 ひ の え 丙

は ち の え 戊 そ と え 巳 む 免 ぐ え 梅枝 志 え 下 枝 む 八 え

未 枝 け え 枝 え 笛 は 是 等 の え 枝 字 も 一 字 乃 訓

よ り 出 づ 詞 を 中 の え 枝 字 を 虫 へ 一 凡 々

詞 集 抄

小エの字、残す所又エへの二字、すべからば○音の
 類とハ永栄睿菔葉の類なるを但一音の上ハ
 大ヤ一エ忍通、用とて一よろの音の字、ゆを
 えととずるに、何りえよ通するおぬり○ゆの
 字、小海子かちかよやめゆえよやめゆえよとて、えとゆと、びえとびゆ、大え
 こゆ、まもえまもえけひえけひえかえかえはへり、いえいえ
 ところえきこゆるまろえまろえらろえらろえとて、たてのおおえ、おほえ
 おかゆ、たえ絶地たゆをへえあへりへ○え忍お通

とといへども忍忍と衣の襟えりえりに忍忍と衛士えりえりむ換える
 えに縁縁えん乃乃忍忍と遠寺えりえりま繪嶋
 えん志志よ菔書えやえやはりはりき又志志たごの杜杜乃ちえの
 秋あきの枝えだとよめるちるいえの枝えだかやうかやうに類通類通用とて可可忍忍冷
 ○て天いちぢよ一帖一疊て調子
 ○あ安 ○さ佐 ○き幾 ○ゆ由 ○め目
 ○み養 ○し志 ふ富士 じ氏 ろ路次 ぢぢ
 十いち志志よよ一乗

韻輔

五十六

○惠 是をおくのゑとらふよそのかいらよみの
 下小あひくゆふかよハぬかふ一字れゑ此之極小
 ゑの字とべー上小まよハ音も訓も大やうゑゑ
 通判とととー○よみのかいらとハゑり襟 ゑひ
酔 け類なり○訓の下ゆふかよハぬかふとハ
非 大ゑ 聲すゑ末 小とゑ 稍 ゆくゑ 行衛 家
末の略 此類皆ゆふかよとぬかふなりゑの字とすべー
 えへの字とべうらびゆふかよハよとらう

○一字の音ハ惠 會清 衣稜 壞此 等なり又
節 會清 府大 堂會 智惠 輪廻 け等皆一字乃
音 音なりゑの字ととべーえの字とすべうらす
 ○ひ 非 是をわくのびと云此ひの字ハいの字より
 從カ 由ヒ 小ホ 亦マ ずベ ー 上ミ の下フ 亦マ かなマ 字マ け二
 極カ 小ホ ハおク のひとす魚 ー ○訓の下ハかひ具
 とい灰 やま のう ひ山 峽う ぐひ と鶯 あひ び菜
和名抄 とい水 鶏同 上上 ちろ ひ鑑 たひ 鯛こ ひ鯉 いひ 飯お ひ粥 めひ

姪 扨とひ一昨日よひ宵あるひ或あるひ價たす一カ魂

よひ歯とさひ禍 望とひ額をととひ元結 此類

なり皆ひの字とべーの字かれ字すむる守

いの字ハ一急れと急ひの字のよみの末ととべー

音イ音の末よりよみの末ハとべー〇ふふかよみ字ハ

はひふへほの通音なるあり〇とたふかよみハ

書一形せんいちとてよひた字なり あひ逸 たひ思

いひ言あひ負あひ侍あひ養あひ敬あひ

習なつひ救あつひ争あつひ同あつひ高たつひ類あつひ

潤かよひ通あつひ悦あつひ使あつひ厭あつひ傳あつひ 此類

ふふかよみかよみおくれひの字とべー〇ひの

字とすくことよびる かひ悲 あつひ隣 あつひ 習

たのひ樂あつひ貴あつひかたひ神南備或ハかたひとあハ

まこととゆりまら

〇も 茂 〇せ 勢 〇す 須 〇ず 〇ら 〇ら 雲珠櫻

○開合乃事

音の開合あり刻の開合あり音れ開合いをもとを
 あかさたなはまやらわの字上よつたるゝゑを皆
 切くゝあゝかゝさゝたゝなゝはゝまゝらゝわゝ
 らゝわゝの類れゝをこゝろとのほもよろれの
 字上ふけさゝるゝゑい皆合ありをさゝあゝろゝ
 そゝのゝほゝもゝうよゝろゝねゝかゝゝ又
 ゑけせてねへめいれゑも合かゝゝゑゝけゝ

せゝてゝいぬゝへゝやゝゑゝれゝえゝなり
 東冬蕭莖むゝの五類小属ゝゝ并又三重韻
 の内右れ平字の下ふあれ上聲去聲ハ皆合かな
 かり是をこゝろとのほもよろねいけさせてね
 へめえれいの付ゝる音れゝ此類ふあゝかゝ
 さゝたゝなゝはゝまゝらゝわゝの
 切くゝかゝさゝへゝゝに東冬の字皆そゝとかく
 たゝといかゝむゝゝい合れゝたゝい開なり蕭莖

ハ皆せうなり志やうといかじせうハ合志やうハ
 ひくくなりあうハ合しかうハ固也めうハ合なり
 みやうハ却く也おうハ合なりわうハひくく
 奥の字あくれ也も固也け類をさめてをして
 志強べーむ候函の内めを眸候倭投歐なと皆
 合かふとを去属ーはうかうらうたうわうと
 固かなますべうす○江肴豪陽庚耕清青此六
 韻小属ーる平字并三重韻小出る右六韻乃

下がる上聲去聲小属ーる字ハ皆固かななり
 是わかされたなはまやらわれ字の上小付る
 音れと并陽唐耕清青の三韻れ内きやう
 志やうちやうひやうみやういやうまやうかと
 中ふやの字入とはハ皆固なりくうもあうく
 かふなりあうかうさうたうなうはうまう
 やうらうわうとひくくかふまきよなうさう
 ろうさうのうほうもうようろうねうと合

かみすべ〜江の韻同韻なり終るふ半同半
 合と子後ら〜或はま〜合韻なりと〜二説
 用也〜と字書と考ふる同韻なること〜
 ぬ〜○入聲少〜ハ合洽の韻ニ属〜きる字ハ
 同かなり葉業の韻ニ属〜るハ合かなる
 ○訓の同合れ事 ○同ハ答〜也
 買〜
 舞〜
 堪〜
 習〜
 捕〜
 甫畝〜

傳 傳ツヨハハク
 唱 唱ツヨハハク
 申 申ツヨハハク
 伴 伴ツヨハハク
 乞 乞ツヨハハク
 吠 吠ツヨハハク
 思 思ツヨハハク
 競 競ツヨハハク
 叶 叶ツヨハハク
 構 構ツヨハハク
 詣 詣ツヨハハク
 ○合ハ
 襲 襲ツヨハハク
 調 調ツヨハハク
 昨日 昨日ツヨハハク
 呪 呪ツヨハハク
 押 押ツヨハハク
 参上 参上ツヨハハク
 倡 倡ツヨハハク
 向 向ツヨハハク
 拾 拾ツヨハハク
 醉 醉ツヨハハク
 賓 賓ツヨハハク

音韻

音韻

神楽の解

或^カ様^{セウ}ふ云上小か^カざるか^カふの^カりこ^カき^カん^カん○下小
う^カざるか^カふの^カ事^カ六^カかに^カあ^カつ^カな^カむ^カ乃^カち^カあ^カら^カし^カみ
○上下^カあ^カき^カう^カる^カる^カか^カふの^カり^カに^カふ^カほ^カへ^カと^カき^カろ^カは
ひ^カる^カれ^カを^カら^カて^カあ^カさ^カし^カも

延享五年辰正月吉辰

村井喜太郎

